

暮らし

火 育

アラカルト
医療・健康
食・エコ
シス・スタイル
趣味・旅
月水木金土日

生と死映した

がんを患い死にゆく夫の姿と、娘2人の家族の日常を捉えた写真集を、東広島市出身の植本さんが刊行した。カメラが切り取るのは、いかに切ないけれど、ぬくもりや喜びもちりばちりとした「生活」。



での家族の姿を、カラー写真19枚で映し出す。窓から入る光に包まれて、布団の上で娘と見つめ合うひととき。病院のベッドで横になり、絵本を読む娘の声に耳を傾ける姿。植本さんが撮る夫のまなざしは穏やか

儀や形見分けの様子も記録する。植本さんは19歳でキヤノン写真新世紀優秀賞を受賞し、東京を拠点に活動してきた。ただ、写真集は初めてで、まとめるのに葛藤があったという。「あの頃を思い出すがら、家族の『いい瞬間』を残したくてシャッターを切り続け



た。「夫が弱っているときは撮れなかった」とも。ためらいを抱えながらも、家族の「いい瞬間」を残したくてシャッターを切り続け

こだま

東広島市 主婦 石丸 浩美 58歳

35年ほど前、結婚して初めて迎える正月だった。夫の実家は朝から活気づいていた。「浩美さん、雑煮の餅は何個がいいかしら」。台所に立つ義母から聞かれた。「3個をお願いします」。私は何も考えず即答した。しばらくして、義母が雑煮を出してくれた。目がまん丸になるほど驚いた。これまで自分の実家で食べてきた雑煮は小さくてかわいい餅。目の前にあるのは、

義母の雑煮

その3倍はあろうかという、でかくてごつい餅。すぐに3個と言ったことを後悔した。義母の手前、残すわけにはいかなかった。私はさほどの大食いとして受け入れられたかと想像した。しんどくて苦しくて、たぶんすさまじい形相をして食べ上げた。翌年からは「1個でお願いします」と伝えることになりました。頭が行くようになった。義母が逝って15年になる。毎年、正月に雑煮を食べる姿が目に浮かぶ。

SNSでつながる心友

いずれも写真集「うれしい生活」から

スマホ世代の子どもたち
石川 結貴
大人の知らない最新事情
③



イラスト・大野太郎

子どもたちが「スマートフォンがほしい」と思う大きな理由がSNSです。ソーシャル・ネットワーク・キング・サービスの略語で、要はいろいろな人とつながり、広く情報発信するための機能です。世界中に利用者がいるツイッターやフェイスブックでは、一つの投稿がたちまち多くの人に共有され「拡散」していきます。実際には会ったことのない人と友達になったりして、SNS上の仲間を「心友」と呼ぶことも。心が通じ合える、本当の自分を分かってくれる、そんな相手を指して使われる言葉です。

一方、親しい人同士で現実につながるための利用方法もありません。例えば同級生と「グループ」をつくり、仲間内でのコミュニケーションに活用します。最近ではクラスや部活動の連絡網にLINE(ライン)が使われるため、スマホがないとみんなの輪に入れないという事態にもなりかねません。こうした事情から子どもたちは「スマホがほしい」「SNSをやりたい」と強く思うわけです。ところが、SNS上のコミュニケーションがトラブルを招く場合も少なくありません。SNSのグループでは事前にメンバーを登録し、新たに加入する人には既存メンバーからの招待や承認が必要です。いわば「密室」でのやりとりで大人の目が届きにくく、メンバー間の同調圧力も強くなりがちです。

子どもだけのやりとりが、悪い意味で過熱すると、うわさ話を広める、誰かの悪口で盛り上がる、集団で一人を誹謗中傷するなど、陰湿ないじめに発展することもあります。具体的にどんないじめが起きているのか、次回に最新の事例を挙げます。(ジャーナリスト)



病気が分かり、人に頼れるようになりまし」と植本さん。「二人

れている。特別展は3月1日まで。同館と中国新聞社の主催。

まぐろの解体ショー & お魚クイズ

1/11(土) 観覧無料

11:30~ 解体ショー
協力 広島魚市場

※ふるまいや販売は行いません

仮面ライダーゼロワン ショー

1/12(日) 観覧無料

10:30~ 14:00

※撮影会はお客様のお手持ちのカメラでの撮影です。

ウルトラマンタイガ ショー

1/13(月) 観覧無料

10:30~ 14:00

※撮影会はお客様のお手持ちのカメラでの撮影です。

ちゅーピータウン

新春わくわく
初夢フェア